

コロナを吹っ飛ばせ! —クラブ活動の現場から—

クラブ紹介

バスケットボール部

新潟生命歯学部

決勝リーグ進出を目指して



新潟生命歯学部4年
須藤 蒼人

日本歯科大学新潟生命歯学部バスケットボール部は現在部員24人で活動しております。今はコロナウイルスの影響もあり、以前ほど活動ができないのですが、コロナが流行する前は週に3日ほど練習し、練習後は5、6年生の先輩や部員でご飯に行ったり、とても毎日が充実していました。

本来であれば夏には全日本歯科大学学生総合体育大会、春休みには東北大会などといった大会があります。また大会だけでなく夏には海でバーベキューなどといった様々なイベントもあります。自分たちは大会での決勝リーグ進出を目標にして日々練習

を頑張っています。部員同士は男女問わず仲が良く、遊ぶときは遊び、練習するときは練習するのでメリハリがあり雰囲気もいいです。まだ、どのクラブに入ろうか迷っている方、バスケットボールに少しでも興味がある方、バスケットボールが好きな方、ぜひぜひ一度見学に来てみてください。新入生の皆さんと一緒に思いっきりバスケットボールができる日を楽しみにしています。



生命歯学部

悔しさと感謝



生命歯学部4年
久保 泰人

生命歯学部バスケットボール部は、今年度から3年ぶりに部活動が再開しました。再開の判断をして頂いた先生方にこの場を借りて感謝申し上げます。

4月から週3回男女合同で練習しています。毎週土曜日はOBのコーチが来てくれてレベルアップに力を入れています。3年間活動していませんでしたが、皆さんの新入部員が入部してくれて男子26人、女子7人で活動しています。コロナ渦の活動なので体温を毎日8:30まで全員送信しないと部活が出来なくなってしまったり……部活が再開して2ヶ月くらいは当日の練習が中止になることも多々ありました。部員みんなの協力もあり、最近では中止になることはなく

なりました。

3年ぶりに全日本歯科大学学生総合体育大会の開催も仙台市に決まり、大会まで1週間を切り、毎年恒例の夏合宿を本学体育館で行っている最中に中止の連絡が届きました。最後の大会だった先輩たち、衛生学科の部員、部員全員が悔しい思いのまま終わってしまいました。来年こそは開催できることを願っています!

バスケ部には輝かしい先輩と素敵な後輩がいます。私自身バスケ部での出会いは人生の財産です。ぜひ一度体育館へ足を運んでください。



令和4年7月26、27日および7月28、29日の各2日間にわたり、新潟生命歯学部において第2学年、第3学年ワークショップが開催された。参加者は学生と教職員で、「医療人を志すこれからの歯科大学生活を充実させるために、自分の目標を再確認し、規則を遵守する常識を兼ね備えた歯科大生に相当する態度を身に付ける」を一般目標として開催された。最初に、中原歯学部長によるワークショップ

の趣旨説明と佐藤教務部長による「学習におけるコミュニケーション能力の確立」について説明が行われ、その後各グループに分かれて少人数制ディスカッションが行われた。入学以来コロナ渦でグループ作業をする機会が少なく、はじめは戸惑っている学生もいたが、時間とともに徐々に積極的となり、グループ内での役割の決定や意見交換も活発に行われた。2日間を通じてグループごとに講堂での発表と

質疑応答が行われ、最終日は初日よりさらに活発な議論が行われた。最後に、藤井一維学長から、2日間の頑張りとして、学生一人一人の潜在力を称える言葉をいただいた。

学生たちは、今回のワークショップを通じて同級生と交流することで、他者の考えを知ることや自身の目標を再確認することができ、また協同作業による充実感を得る機会となり非常に有意義なものとなった。



富山 地区別校友会紹介

富 山県校友会は現在125名の会員数で、富山県歯科医師会の会員数の約1/3を占めており断トツの会員数を誇っております。

年代では老・壮・青でバランス良く構成され、年代を問わず皆、和気藹々と診療情報の交換やプライベートにと親睦を深めております。

1年を通しては7月に定例の総会と懇親会、翌日に学術講演会、1月に新年会と翌日の学術講演会を開催しています。2回の学術講演会の講師は生命歯学部と新潟生命歯学部から各1名ずつ来て頂いて最新の知識、技術に触れることにより日々の診療に役立てています。

講師の先生には前日の懇親会から出席して頂き、富山のおいしい魚や美酒を堪能して頂いて懇親を深めたのち翌日の講演に臨んでもらっています。

また、保険改正やその時のトピックなど必要に応じて研修会を開催しております。ただ、新型コロナウイルス感染症の影響でここ2年間は懇親会、新年会、学術講演会は開催できておりません。ただ、コロナの影響でしかたないといっても前

には進まないで、今年は若い先生方を中心にオンラインでの講演会を企画、挑戦し見事やり遂げました。

飲み会などの時に後輩から『やっぱり校友って良いですね〜』という言葉をよく聞きますが本当にうれしく思います。

難関の国家試験を突破し修行期間のあと富山に帰ってこれたら是非とも富山県校友会に入会され、日々一緒に研鑽を積みましょう。君たちの若い力を富山県は待ってます！

桶家 樹 (74回)
連絡先：桶家歯科医院 0766-91-1109



学生短信 Niigata

臨床実習の学び



新潟生命歯学部5年
円谷 祐太郎

私 は大学生生活を2回経験していますが、以前の大学では分子生物学・発生学についての研究をしていました。将来この研究が人の役に立つかもしれないという思い

を抱きながら、日々を送っていました。現在5年生となり、先輩である歯科医師の先生方の指導のもと、共に切磋琢磨してきた友人と教科書では得られない「人を診る」ことを学んでいます。過去の思いと、現在の志が調和していることを日々実感しています。

臨床実習では多くの治療に触れており、使用器具・薬品、治療手順の一つひとつ理解するとともに、自身で治療する際にどのように治療を進めていくべきか想像しつつ、先生方の言動をみて答え合わせをしています。先生方からの教えは、歯科医師国家試験に合格するためだけでなく、将来歯科医師になる上でかけがえのない知識となっています。歯科医師になりたいという思いを強く抱き、自分の描く歯科医師像に近づけるよう、『情熱』をもって臨床実習に邁進したいと思います。



新潟市開業
田畑 伸人 (83回)

ヤ〜ッ!

平成6年新潟歯学部を卒業してあつという間に28年の歳月が流れました。「地元新潟で歯科医療人として生きていこう」と、卒業後8年間新潟歯学部歯科補綴学第1講座で研鑽を積み、平成14年に開業してから5年間、診療所の体制作りで没頭しました。開業と時を同じく長女が誕生し、2年後には長男にも恵まれました。新潟の四季を楽しめる子に育てて欲しいと思い、休みを作っては一緒にピクニック、釣り、スキーに行きました。また、子供の行事にもできるだけ参加しました。が、ご多分に漏れず子供たちも大きくなり、僕の手から離れていきます。

50歳を迎えるにあたって何か新しい事でも始めようかな?と考えていた平成30年の冬、平昌冬季オリンピックで注目を集めた競技が



あります。「そだね〜」、「もぐもぐタイム」と言うピンとくる方も多いと思います。そう、カーリングです(写真は北海道北見の佐藤大先生のご厚意でいただいた口ソラーレの色紙)。「カーリング・新潟」で検索すると、新潟県カーリング協会というものが存在し、通年でプレーできるアイスアリーナがある。しかもなんと、体験会実施中とのこと。これも何かの縁、ということで50歳の誕生日のその日に体験会に参加したのです。その後何回か練習を重ね、ビギナーズカップで優勝したら、もうカーリングの虜です。協会に入会し、競技者登録をして練習に励み、シニア選手権、軽井沢アイスパークで開かれる中部選手権にも参加しました。往年の名プレーヤーや、超一流選手が間近で見れるのもこの競技の魅力です。

カーリングのアイス表面はペブルと言われるツブツブがあります。放たれたストーンはこの上を滑っていきますが、スイープすることでストーンはグンッと伸びます(この氷の表面をゴシゴシ掃くことをスイーピングといいます)。独特の掛け声「イエス」や「ヤッ!」はスイープして、「ノー」や「ウォー」はスイー

プやめて、の意味です。

カーリングはゴルフと同じくセルフジャッジのスポーツ。競技規則の最初に記載される「カーリング精神」と言われるマナーとスポーツマンシップを最も重要なものと位置付けます。刻々と変化するアイスを読み、放たれたストーンを目標に向かって声を掛けあいながらチームでコントロールしていく。どうでしょう、コロナ禍にあつて皆さんを取り巻く社会情勢も日々変化し予測もつかない。不安なことの方が多い大学生活かも知れません。でも、どうか立ち止まらずに、目標をしっかり持って、皆で「ヤ〜ッ!」と声を掛け合い、目標に向かって前進して欲しいと思います。

実は、僕もコロナ禍にあつてカーリングは自粛中です。2022年3月、1日も早く平穏な世界が戻るよう願つて筆をおきます。



北海道北見市のカーリングチーム口ソラーレの選手たちのサイン色紙



国家試験体験記

私は第115回歯科医師国家試験に合格し、今年度よりは日本歯科大学新潟病院で臨床研修歯科医として勤務しています。国家試験を終えて学生時代を振り返ると4年生以降の学習方法が特に重要であったと感じます。

4、5年生ではCBT、学内試験に向けての勉強で基礎系、臨床系の基本的な部分を定着させました。まず単元ごとに講義プリントを読み、そのあと問題集や授業中に提示された問題を解くことで実際に自分の中に知識が定着しているか確認しました。問題が解けない場合は再度プリントを読み、教科書、参考書、ネットなどを用いて足りない知識を補充していきました。また、この時

に何回やっても理解するのが難しい範囲や暗記がなかなかできない範囲についてはノートを作成しました。類似点、相違点をまとめた表は問題を解くときに迷うことが減ったため特に役に立ちました。また、これらノートはいつでも見返すことができるように常に持ち歩いていました。

6年生では学内試験ごとに毎回総復習を行いました。近年の国家試験は様々な範囲からの出題が増えているので6年生の授業では新しい内容も出てくると思います。今まで知らなかった知識がどんどん増えて焦ることも多いと思います。新しい範囲の勉強も大事ですが、基礎系の内容や基本的な事項が後回しにされ、いざ本番の試験では知

識が抜けてしまっているといたことも考えられます。実際に私も「ここは確実に大丈夫。」と思っていた内容がいざ試験の時には思い出せず焦ることが度々起こりました。試験直前に講義プリント、ノートを用いて毎回総復習をすることで忘れてしまった範囲を再度確認することが重要だと思います。

いよいよ国家試験が近づいてきましたが直前でも焦らず、今までやってきたことを信じて日々の勉強を頑張ってください。皆さんの国家試験合格を応援しています。



新潟病院
臨床研修歯科医
永田 琴乃
(111回)

